

支 出 書

会 派 名	公明党	整理No.1 —
科 目 (該当○印)	① 調査研究費 2 研 修 費 3 資料作成費 4 資料購入費 5 広 報 費 6 広 聴 費 7 要請・陳情活動費 8 会 議 費 9 人 件 費 10 事 務 所 費	
金 額	59,380 円	
支出年月日	2019年 9月 30日	
支出内容	2019年9月30日～2019年10月1日 「卸売市場の運営について調査」出張旅費 鹿児島市 (鹿児島市中央卸売市場魚類市場視察研修)	
支 出 先	別添、領収書のとおり	

領 収 書 (該当○印)	<input checked="" type="radio"/> (別紙の領収書添付用紙へ添付)
	<input type="radio"/> 無 領収書を添付することができないため、上記の内容の支出をしたことを証明する。 会派の代表者名 <span style="float: right;">印</span>

(領収書添付欄)

※領収書が重ならないよう1枚ずつ添付してください。

※枠内に収まらない場合は領収書を縮小して添付するか、又は、A4版の領収書等については、そのまま添付してください。その場合は、支出書整理Noを右上に記入してください。

# 領 収 書

(会派名) 公明党

2019年9月30日

(代表者) 塚本 裕三 様

**¥59,380**

但、9月30日～10月1日、鹿児島市中央卸売市場魚類市場の視察への出張旅費

[内 訳] 上記正に領収いたしました



	金 額	摘 要
交 通 費	38,380円	鹿児島市
日 当	6,200円	2日
宿 泊 料	14,800円	1泊
( )	円	

(会派名) 公明党

(名 前) 宮地 徹三



研究研修・調査報告書

会 派 名	公 明 党	報 告 日	2019年10月7日
代 表 者	塚 本 裕 三 	報 告 者	宮 地 徹 三 
参 加 者	宮 地 徹 三		
実 施 日	2019年10月1日		
研究研修・調査等の場所	鹿 児 島 市		
目 的	鹿児島市中央卸売市場魚類市場の視察		
研究研修・調査等の概要			
視察日程	2019年10月1日		
視察団体	福山地方卸売市場運営委員会 (22名)		
視察場所	鹿児島市中央卸売市場魚類市場 (鹿児島市城南町 37-2)		
市場施設見学	10月1日 (火) 5:30~6:30		
意見交換会	同 上	8:30~9:30	
市場関係者			
(魚類)	市場長 迫 裕一	主幹 寺師俊孝	主査 横山 中
	主任 坂本佳史	主事 迫 佑樹	
(青果)	市場長 祝井敏明	係長 高橋秀幸	主査 児之原博寿
			以上9名

### 【卸売市場・魚類市場内視察】

鹿児島市中央卸売市場・魚類市場は、現在の同市城南町 37 番地 2 に移転開業後既に 44 年が経過し、経年劣化や海に面していることによる施設の老朽化が著しく、再整備基本計画に基づき現在地での再整備が進められているところである。

本市場は、敷地面積が 30,151 m<sup>2</sup>、建物床面積が 21,801 m<sup>2</sup>で、駐車場面積は場内 1,746 m<sup>2</sup>、場外 4,312 m<sup>2</sup>である。

また、市のほぼ中心部に位置し、奄美大島・沖縄等の離島航路の窓口である鹿児島港新港区や主要国道等の幹線道路に近接し、流通拠点としては恵まれた環境にある。

取扱高の状況は平成 30 年度で、青果市場が、野菜・145,649 トンで 259 億 5,599 万 5 千円、果実・23,338 トンで 81 億 9,008 万円、加工品他・1,687 トンで 2 億 3,491 万 5 千円となっている。また、魚類市場は、鮮魚・21,014 トンで 127 億 199 万 4 千円、冷凍魚・1,369 トンで 12 億 2,332 万 5 千円、その他・2,203 トンで 23 億 2,386 万 9 千円となっている。

魚類市場の特徴としては、①船からの直接水揚げに対応できる産地市場としての機能、②生鮮カツオの高い水揚げ量、地元量販店による高い取引量、③地元におけるアジなどの青物の高い消費量、④観光客向けの市場見学への取り組みなどが上げられ、圏域市民の食生活に欠くことのできない施設となっている。

主要施設としては、中央管理棟を始め青果卸棟・仲卸棟、水産卸棟・仲卸棟、冷蔵庫、関連事業者売場、買荷保管積込所、廃棄物処理棟などで、延床面積は 228,862 m<sup>2</sup>である。

また、市場施設の建て替え整備を推進することでコールドチェーンを確立し、食の安全面・衛生面の向上を図りながら、中央卸売市場として取扱数量の増大を目指し、鹿児島地魚をはじめ水産物の魅力を発信することで需要喚起に繋げ、市場一体となって目標達成に取り組まれている。

### 【意見交換及び所感】

魚類市場においては、現在地に移転以降は大規模な改修を行っておらず、国の卸売市場整備基本方針や中央卸売市場整備計画及びストックマネジメントの考え方に基づき、平成 20 年度に基本構想を策定し、基本計画・基本設計の検討を経て、同 26 年度より再整備を開始し令和 4 年度を完了目標とされている。本市においても、中長期的構想やその手法については大いに参考にすべきである。

福山市場は、開放型の荷捌施設で、低温での品質管理に課題があり、早急な対応が求められている。当市場はハード面では、閉鎖型の高床式卸売場や仲卸売場、低温卸売場などを整備し、夏季には空調で温度管理を行っている。ソフト面では、衛生品質管理マニュアルを作成し衛生管理に努められている。食の安心・安全の観点から、これらコールドチェーン施設による商品管理のシステムは、今後のあり方を検討する上で貴重な参考事例と考える。

福山地方卸売市場は、開場から 47 年が経過し施設の老朽化や流通の多様化、市場経由率の低下など、抜本的な課題に直面しているが、改正卸売市場法が 2020 年 6 月に施行される。当市場は、第三者販売・直荷引・商物分離については、条例上は原則自由化。但し、取引に関する協議機関を新設、必要に応じて規則・要領・要綱または業界内紳士協定でルール化を図る方向である。本市場は、2019 年 8 月に「選ばれる卸売市場をめざして」を策定し、今後は「基本計画」策定の段階であるが、今後の具体の協議の参考にしていける必要がある。